

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----------|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|------------------------------|
| 事業所番号 | 鹿児島県指定 第4690200102号 |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 こしき風林火山 |
| 事業所名 | グループホーム 多喜人 |
| 訪問調査日 | 平成 21 年 11 月 5 日 |
| 評価確定日 | 平成 21 年 12 月 5 日 |
| 評価機関名 | NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構 |

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかえる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月10日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|------------|
| 事業所番号 | 薩摩川内市指定 第4690200102号 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 こしき風林火山 | | |
| 事業所名 | グループホーム 多喜人 | | |
| 所在地 | 〒896-1101 鹿児島県薩摩川内市里町里470 (電話) 09969-3-2127 | | |
| 評価機関名 | NPO法人 自立支援センターかごしま福祉評価機構 | | |
| 所在地 | 〒891-0102 鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年11月5日 | 評価確定日 | 平成21年12月5日 |

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------|-----------------------|-------|
| 開設年月日 | 平成19年11月1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 11 人 | 常勤 5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 | 8.2 人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|---------|---|-------|
| 建物構造 | 木造瓦葺 造り | | |
| | 1 階建ての | ～ | 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------|----------------|---------|-------|
| 家賃(平均月額) | 17,400 円 | その他の経費(月額) | 8,000 円 | |
| 敷 金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 | 250 円 |
| | 夕食 | 300 円 | おやつ | 100 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

| | | | | | | |
|-------|----|-------|----|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 9名 | 男性 | 2名 | 女性 | 7名 | |
| 要介護1 | 0名 | 要介護2 | 5名 | | | |
| 要介護3 | 2名 | 要介護4 | 2名 | | | |
| 要介護5 | 0名 | 要支援2 | 0名 | | | |
| 年齢 | 平均 | 84.1歳 | 最低 | 75歳 | 最高 | 93歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------|
| 協力医療機関名 | 薩摩川内市里診療所 |
|---------|-----------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

甌島4町の中で唯一のグループホームで、離島での認知症介護の拠点として設立した施設である。地域に馴染みやすいように建てられており、入居者は自分の家との思いで、安心してのびのびと生活している。地域の中では、近隣の住民との交流を通して、その人らしく暮らし続けるといふ、まさに地域密着型のサービスを提供するホームである。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | チームでつくる利用者本位の介護計画について、計画作成担当者が頻繁に家族と面談するなどして、本人・家族・職員など関係者との話し合いを行い、改善している。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組みや状況(関連事項:外部4) |
| | 自己評価は、施設長・管理者及び事務長が中心となり評価してきた。しかし、評価活動を実施するなかで、全職員で自己評価をすることが、課題となる項目に気づくなど、重要であるとの認識に立っている。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 会議は、適正に運営されており、多様な意見交換がされている。駐在所の警官や家族代表などからいろいろな意見や注意事項などが出され、ホームの運営や支援に活かしている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 苦情や要望を表出しやすい環境づくりに努めている。ホームの周りのすぐ行ける範囲内に家族が生活しているので、施設長兼計画作成担当者が頻繁に訪問して接触しており、意見や苦情を受け止めている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 里地区は甌島最大の人口密集地域であり、その地域に溶け込んでいるホームである。ホームの利用者は地域住民がよく知っており、職員も地域の住民である。町内会に加入し、地域の行事にも積極的に参加し、小中学校の体験学習にも協力している。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|--|
| 1. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 開設当初から、支援にあたっての職員の心構えを主とする内容の理念が掲げられている。このホームは、地域の中で暮らしを支援するという地域密着型サービスを提供しているため、そのことを踏まえて理念の検討を進めている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念の掲示をして、職員に意識づけをしている。実践の中でも、施設長が研修で、理念と支援について指導している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | このホームは、地域に溶け込んでいるホームで、このホームの利用者を地域住民がよく知っており、職員も地域の住民である。町内会に加入し、地域の行事にも積極的に参加し、小中学校の体験学習にも協力している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 外部評価の改善点に取り組んでいる。全職員で自己評価を実施して、課題となる項目に気づくことが重要との認識になってきている。 | | 多くの職員で自己評価を行い、具体的な改善点に気づくような体制を確立することを期待したい。 |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は、適正に運営されており、多様な意見交換がされている。駐在所の警官や家族代表などからいろいろな意見や要望などが出され、ホームの運営や支援の在り方に活かしている。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|--------------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市の支所担当者はホームからの事務手続きや相談に、快く応じており、連携が密で情報交換もなされている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族が近隣に住んでおり、利用者の暮らしぶりや健康状態は、詳細に報告している。金銭管理については、定期的に報告している。一部遠方の家族には随時電話で連絡している。新人職員はその都度紹介している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情や要望を表出しやすい環境づくりに努めている。ホームの近隣に家族が住んでいるので、施設長兼計画作成担当者が頻繁に訪問して、意見や要望を聞き支援に活かしている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員と利用者は馴染みの関係ができており、そのため、離職の影響を重視して職場定着のために、職員が働きやすい労務管理に努めている。新人職員にはベテラン職員と一緒に行動し、はやく利用者が馴染むように努めている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 離島のため、島外の研修参加は少ないが、できるだけ職員が内外の研修に参加できるようにしている。内部研修も月1回程度実施し、口腔ケアなどの研修を実施している。また、資格取得希望者にも理解を示している。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域内の介護者研修に参加している。地区内にグループホームがなく、手軽に同業者同士の交流が困難であり、介護職員の交流・体験研修が未実施である。。 | ○ | 計画的に薩摩川内市内のグループホームとの交流を実現する取組に期待したい。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|--|--|----------------------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居希望者には、担当者が訪問して親しくなることから始めており、本人や家族がホームへ見学に来てもらったりして、徐々に馴染んでいくようにしている。気軽に体験入所などの方法も考えている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は、利用者から先輩としての教えを受けたり、会話の中から学ぶことが多い。夜勤などで利用者から声をかけられたりして励まされている。利用者と一緒に過ごし支え合う時間を多くするように心がけている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者中心を心がけ、希望や要望の把握に努めている。意向を把握したら引継ぎ簿や申し送りノートに記録して、職員は共有している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 計画作成担当者が、本人や家族と話し合っアセスメントを行い、担当職員の意見を聞いて介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 担当者会議で評価の検討を行い、介護計画は定期的に見直しをしている。状態変化時は随時介護計画の見直しを行っている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 外泊や茶話会など、本人の意向や要望に添った生活支援のほか、通院支援や買い物などの多機能性を活かした支援をしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 里診療所がかかりつけ医で、定期受診や緊急時にも対応している。また、家族と医療情報は取り合っており、島外での適切な医療が受けられる体制もできている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 島の現状から、重度化対応及び最後まで看取る方向付けがある。主治医・職員・家族で話し合いをして、支援できる体制づくりを行っている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者に対して、プライバシーを損ねない支援と声かけに配慮している。施設長は、職員と利用者が以前から顔見知りのため、人としての誇りや自尊心を損なわない支援について職員に指導している。個人情報の保護に関しても細心の注意を払い、誓約書を取っている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日中は本人のペースで自由に暮らしている。管理者は、日々の生活が業務中心にならないように職員に注意している。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----------|---|---|--------------------------|----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の嗜好を聞き、調理している。手づくりの家庭的な料理に心がけ、利用者も配膳や片付けを一緒に行い、職員とともに楽しい食事を行っている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は時間や曜日を設定しているが、自分で入浴日や時間を決めて入浴を楽しんでいる。近くの温泉へ出かけるなどの支援もしている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 日課として、畑や周囲の草取り・家事や洗濯物たたみなどを行っている。歌やクラフトをしたり、茶話会や昼食会など生活を楽しめるよう支援している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 近くの公園や海辺の散歩に出かけている。買い物や希望に応じて自宅訪問も行っている。 | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は玄関の鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員が細心の注意をはらい、連携プレーで自由な暮らしを支援している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 施設長が地区の消防団員であり、定期的に避難訓練を行っている。近隣や地域住民の参加協力もある。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分の摂取状況はチェックされている。栄養バランスの取れた食事提供の支援を行っている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間は、我が家に居るような雰囲気、のんびりとできる。手すりの設置や段差解消などの配慮がなされており、明るさや風通しも良好で、衛生管理も保たれている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の好みの品が持込まれており、居心地よく安心して生活している。 | | |

※  は、重点項目。